

令和3年度 那覇市在宅医療・介護連携推進事業 『“新型コロナウイルス感染症第6波の備え”および“ちむぐくルール”研修会』

○日 時：令和3年10月20日（水） 午後7時00分～9時00分
○場 所：那覇市医師会・4階ホールおよびZoom
○参加者：86名（49施設）

演題①：『新型コロナウイルスデルタ株の感染対策および感染者発生時の対応について』
講 師：那覇市保健所 豊川 貴生 氏

演題②：『第5波の医療機関の状況報告およびACPについて』
講 師：沖縄県新型コロナウイルス感染症対策本部 佐々木 秀章 氏

演題③：『平時からの医療との連携および急変時の判断と連携について』
講 師：那覇市医師会 在宅医療担当理事 嘉数 朗 氏

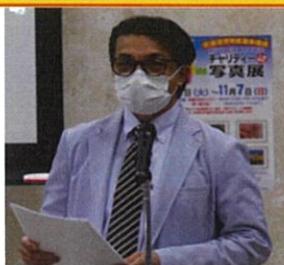
演題④：『適切なサービスの導入について』
講 師：那覇市在宅医療・介護連携支援ネットワーク協議会 委員 高良 孔明 氏

演題⑤：『ちむぐくルールについて』
講 師：全国介護事業所連盟沖縄支部 副支部長 與那嶺 康 氏

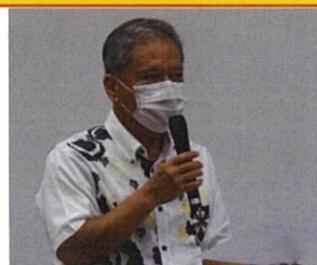
演題⑥：『介護サービス事業所等に対するサービス継続支援事業について』
講 師：那覇市ちゃーがんじゅう課 施設グループ長 上原 善周 氏



司会：佐久川 伊弘 氏



開会挨拶：喜納 美津男 氏



補足説明：仲宗根 正 氏



閉会挨拶：佐久川 正守 氏



佐々木 秀章 氏



嘉数 朗 氏



高良 孔明 氏



與那嶺 康 氏



上原 善周 氏



日 時:令和3年10月20日(水) 19時00分～21時00分

会 場:那覇市医師会・4階ホールおよびオンライン(ZOOM)

参加者:86名

回答方法:FAXおよびオンライン(Microsoft Forms)

問1.『新型コロナウイルスデルタ株の感染対策および感染者発生時の対応について』ご意見・ご質問等をお聞かせください。

- ・今回の研修でデルタ株の脅威が分かりました。最新の情報が聞けて良かったです。
- ・PCRの感度・タイミング・対象者を意識し、日頃の換気や対策を再度見直す良い機会となりました。緊急事態宣言が解除された今、利用者家族への対策継続の理解が難しく感じていたので(面会希望・外出希望など)研修内容をもとに説明していければと思います。
- ・第6波が来ない事を願いますが、常日頃から感染予防対策を徹底して利用者が安全で安心してサービスを受けれるように努めていくことが大事だと再確認できました。
- ・用語が難しかった。
- ・急な収束に不安が残る。感染者発生時の対応の継続が必要と思いました。
- ・認知症があり、行動制限が難しい入居者の隔離について
- ・施設での面会再開の基準ができるだけ明確になるとありがたいです。感染対策は一人でもでたら「全員が疑いあり」で対応することを改めて思い出しました。
- ・エアロゾルの発生が話すだけでも少なからず発生している。長期の緊張持続で現在緩むことのないよう注意が必要と感じた。休憩中の距離、歯ブラシの時等
- ・2回のワクチン接種を終えており、感染してももしかすると無症状であるかもしれないと思うと不安でもあります。今後も職員一同過度な外出は避け(密は避け)手洗い、うがい、マスク等継続するしかないと思っています。
- ・幸いなことに入居者・職員の感染なく過ごしているが、職員には行動制限をお願いしていく入居者の外出もほとんど行っていない状態が続いているので、きちんと対策を行い、少しづつ緩和の方向を考えている。
※感染予防の対応は、医師会からのマニュアルを参考に行っている。
- ・新規入所者及び入所者の退院時には必ずPCR検査、そしてコロナワクチン済みであること、外出や外泊も許可していません。面会は10月に行いました。2m空けての面会、職員は検温消毒、マスク着用必須。
- ・保健所の指導と県コロナ対策本部の指導に違いがあり困惑した部分がありました。保健所は現場確認せず施設の対応を指摘してばかりで、少ない人数で対策をしているにも関わらず相談できなかった。県コロナ対策室は実際現場でスタッフ一人一人の体調を聞きながら出来る感染対策を指導してくださった事に感謝しています。

問2.『第5波の医療機関の状況報告およびACPについて』ご意見・ご質問等をお聞かせください。

- ・ACPについては出来ていない部分があると思いますので、勉強が必要だと感じました。
- ・当事業所は看取りケアをしておらず、職員の技術・経験・心のケア(理解)は課題です。医療連携はまだまだ未発展なので研修内容を共有します。できる範囲と思い医療連携シート(引継ぎ書)は作成しています。
- ・コロナをきっかけに、ACP、施設での看取り支援について全体の意識が変わったと思います。しかし、当施設では、まだまだ看取りやACPについての取り組みがスムーズでない部分が多く、日々悩んでおります。今回のオンライン研修の参加人数も3～4名でしたので、施設内での勉強会を外部講師さんに依頼できたらなと思っています。
- ・再び第5波のような感染が拡大しないように、今回の研修を活かしていきたい。
- ・必要だと思う。11月中に利用者様ご家族様と話し合う時間を設けるようにしたい。
- ・有料老人ホームの立場としては入所時にACPについて確認させていただいているが、いざとなると家族さんの気持ちが動転するようです。基幹病院への搬送は極力避けたいのですが主治医が基幹病院の方もいらっしゃるので難しい問題だと思います。どの訪問診療でも治療ができると良いと思います。
- ・急変時のACPと、その場の気持ちと、前もって相談は行っているが。

- ・命の選択はしてはいけないが、切迫した医療体制の中で対応が急がれる場合のために普段からACPについて考える必要があると思いました。
- ・施設で使用している緊急時シートを社協の様式を参考に見直していきたい。医師の確保が必須。同時にご家族と勉強会を再開したい。
- ・ACPにより作成された書類があれば、心身の状態の変化に応じて本人の意思が明確になるので良いのと思います。
- ・新聞やTVの報道で沖縄の現状は分かっていたつもりだったが、今回の研修で現場の医師から高齢者を病院へ搬送ができず医療崩壊があったとの報告を聞き、胸が締め付けられる思いであった。第6波に備えて再度グループホームでの対策を見直し、またACPについても平時から話し合いを行っていきたい。
- ・一番苦しい状況だったと思われます。他の病気で救急搬送しても、かかりつけ病院であってもコロナで他症状での入院や救急は困っていて、他クリニックで診てもらうようにと言われコロナのせいでどこも診てくれない状況でした。

問3. 『平時からの医療との連携および急変時の判断と連携について』ご意見・ご質問等をお聞かせください。

- ・医療も介護も忙しいので、なかなか連携は難しい部分あると思いますが、平時から体制をお互い整えていく事が大事だと思いました。
- ・訪問看護を受けている利用者様も数名いますが全員ではなく、当事業所は看護師不在(デイのみ)なのでデイの看護師がいろいろ対応することも多いです。バックに医師がいる訪問看護の必要性を重視し関係者間で連携していればと思いました。しかし訪問看護はサービス導入にあたり必要性も問われる所以薬剤管理などできる範囲から相談していきたいと思います。
- ・医療との連携や訪問看護の重要性を再確認できました。
- ・施設入居時にかかりつけ医の確認をさせていただいており、緊急時の搬送もどうするか確認しています。急変時はナースがオーソンコール体制になっていますので、ナースが状況を確認したうえで救急搬送しています。
- ・なかなか出来ていない部分を強化していきたい。
- ・有料老人ホームで生活する高齢者が訪問看護サービスを希望する場合、ケアマネジャーと料金について医師・看護師間で共通認識はありますか？
- ・地域医療から急性期病院への紹介、治療終了後の逆紹介がもっと頻回になれば在宅で過ごせる人が増えてくると思う。
- ・週に一度の訪問看護での専門的な判断は得られるが、当ホームでは管理者と訪問診療医との情報共有がしっかりと行われている。※訪問看護師の入れ替わりが多いように感じる。
- ・ホームへ入居され訪問診療医へ引継ぎの際と、サービス担当者会議等でCPRについては都度確認を行い家族の同意を取っているが、ACPまで行っていないためこの機会にきちんと文書にしておく。
- ・連携クリニックの医師とよく連絡し合い、保健所とも連絡し相談したりしていました。検体検査キットも準備して今後の対応に繋げています。

問4. 『適切なサービスの導入について』ご意見・ご質問等をお聞かせください。

- ・本人・家族、行政との連携を取り、適切なサービス導入が出来たらと思いました。
- ・研修の中でも平時からの“訪問看護の導入をおすすめする”とおっしゃっていました。ご利用者さまの介護度や施設の連携にもよるのか、なかなか訪問看護の導入に消極的な部分があるように感じます。
- ・今後、訪問歯科や面会制限等の緩和をどのようにしていくか施設内で感染予防の再確認を行い制限緩和を検討していきたい。
- ・訪問看護師の導入は検討する必要があるのか話し合いたい。
- ・現状を分析し、エビデンスに基づいた対応をしていきたい。
- ・面会再開の基準と同様に再開に向けた根拠を説明できるように取組めたらと思う。
- ・倫理観、公正、公平に業務を行うという意味では良いと思います。

- ・日頃から多職種との連携、些細な事でも情報は共有できるように努めている。入居者本位の必要な医療や介護が行えているか、サービス担当者会議では関係者全員で話し合いを行っている。
- ・訪問看護のことは、いろいろ検討しないといけない事案です。

問5.『ちむぐルールについて』ご意見・ご質問等をお聞かせください。

- ・皆に広まって活用できたらと思います。
- ・事故の際の保険者への報告基準を明確に理解できました。解釈通りだったので安心しました。今年受けた実地指導で当事業所も備蓄の指摘をうけました。金額も高いので徐々に購入していますが、災害対策(計画書作成)など防災計画、訓練は行っていたので範囲を広げ作成をしています。私は防火管理もしているので作成者の立場としては事業所によって対応は変わるといえど見本があればな思ってます。(他の事業所のものみてみたい。こんな風に作成など知る機会がない)
- ・事業所職員にもちむぐルールの内容の確認周知に努めていきたい。
- ・とても良い事だと思いました。
- ・ルールが見える化になっていて分かりやすい。
- ・施設内で共有していきたい。
- ・職員研修で活用を考えたいです。
- ・安全管理、感染症管理、記録、医療との連携、ACP、災害時の対応と連携は日頃より取組んでいます。
- ・とても見やすく、活用しやすい。
- ・もっと知りたい情報をこちらで知ろうと思って活用したいです。

問6. 新型コロナウイルス感染症に関して那覇市医師会、ちゃーがんじゅう課へのご意見・ご要望がありましたらお聞かせください。

- ・コロナ感染者が出た際や入退院の際、スムーズな連携が取れたらと思います。
 - ・昨年1度那覇市医師会から現地視察(対策について)が各有所料老人ホームにありました。大変だとは思いますが、直接環境や対策も見ていただきアドバイスをもらえる良い機会だったので、またあつたら助かるなど思っています。
 - ・研修の中でも、“施設での面会基準の緩和内容”の指針が出されるとのことでしたので安心しました。高齢者のより良い生活が前向きに取り組めるように参考にさせてください。そして、また、ご質問や相談をさせてください。いつもありがとうございます。那覇市医師会の皆様や沖縄県、那覇市とお互いに協力できるように、私たちにもできることを取り組んでいきたいと思います。ありがとうございました。
 - ・今後もこのような研修会の機会の主催をお願い致します。
 - ・沖縄県・那覇市と合同で研修会を開催していただきたい。
 - ・クラスター発生時、適切に対応して頂き感謝しています。第5波では体制も整っている報告があり安心しています。有料老人ホームは医師が在中しておりますので、安心して利用者が生活できる環境が整えばと思います。
 - ・高齢者の面会の検討、高齢者は我慢を強いられるのか。
 - ・海外では5歳～11歳を対象にワクチン接種が始まっています。沖縄は全国的に見ても感染者のリスクも高いため、子供のワクチン接種が早めに行えると良いと思っています。これからインフルエンザも子供たちの中で流行するという声もあり安心できない。
 - ・当初は訪問診療医へワクチン接種をお願いしたい旨を伝えていたが、那覇市在のクリニックではないとのことで手続きが面倒な事などがありできませんでした。(浦添市に配布しているワクチン使用等)3回目のワクチン接種は、訪問診療医へお願いできたらと思います。
- ※6/3、6/24入居者と職員全員スムーズにワクチン接種できたこと、那覇市医師会の皆様には感謝致します。
- ・コロナワクチン接種、もう少し簡単に早く接種できるようにしてほしいです。特に公民館での集団接種は怖くて、また他市町村在住の職員に対しても施設所在地の市町村すぐに受けられるようにしてほしいです。